



るんですけど、二回目以後はどんどんどんどんやっけていきなという感じだと思います。

### 門脇

テーマが「震災体験」ということで議論が拡散してしまったということがあるかもしれないですね。非常に多岐な話題に及んだ前回だったわけですが、文字おこしをしていて私が特に気になった話題であり、ツイッターでもいろいろなご意見がよせられたのが、仙台のまちについての鈴木さんのご批判でした。

例えば鈴木さんはこのようなかたちで言われているんですね。内戦直前のユーゴ、あるいは解体直前の旧ソ連に今の仙台の状況が酷似している。

### 鈴木

震災後、毎週末、朝方にパトロールをしているんですよ。今、治安が極めてよくないです。治安の悪さに加えて、人々の意識が悪い方になってしまっている。ゴミの落ちている状況が、震災前に比べるとひどくなっているんです。なぜそういうことがわかるかというと、パトロールもそうですし、月一でやっている「仙台ダストスポットミステリーツアー」というゴミ掃除の、なんというか…活動——私、「ボランティアー」って言う言い方が嫌いなんで——、そして毎朝早く、目立たないようにやっている清掃活動。今までの倍とは言いませんけれど、1・5倍から1・7倍くらいのゴミが出ているんですよ。

よ。しかもゴミが投げられている状況が極めて悪質で、ずさんでいる。

ひとつは、震災の後の雇用問題。働けないでいる人が相当数います。その影響で夜遅くまでたむろし、ゴミを投げたりする。そういう人には圧倒的に若い人間が多いです。パトロールしていると、何かやりたいんだけど、何やったらいいのかわからない感じの若者たちがたむろしているんですね。朝の3時半とか。

### 太田

鈴木さんが回っているエリアというのはどの辺なんですか。

### 鈴木

立町、大町、アーケード周辺です。アーケードは電気がついていたり、人通りがあったりして意外と治安が悪くないんです。だから国分町というのは私、あまり治安は悪くないと思うんです。

### 太田

その裏手がまずいと。

### 鈴木

そうですね。本当の路地。そういうところに行ってしまうと、警察のパトロールも追いつかない部分があったりします。極めて怖い状態です。こういうのを見ると、日本国内なのかあとと思うところがあるんですよ。

### 太田

「日本国内なのかなあ」というのは？

### 鈴木

子どもが夜歩いても何の問題もないというのが私の中の日本国内なんです。歌舞伎町など一部は除きますが。仙台でこんなところ

があるのかと正直びっくりしました。

### 太田

震災の後で如実に変わったということですか。

### 鈴木

そうですね。震災の後です。もちろん、震災前にもちらほら見られはしたんですけども、いざパトロールをしてみると、どんなその数は増えてきているんですよ。

例えばひったくりなどは表に出ますが、性犯罪、婦女暴行だとか未遂だとかいうのは犯罪の性質上、表に出づらいですよね。女性が勇気を出して告発するということがあったとしても、そういうのは氷山の一角で、一件出て来ればその20倍30倍あるんじゃないかと見えます。今のところ新聞など見てもそういうのは出てませんけども、出ないからといって何もなしということではないと思います。

実際、私が見ていて、女性が歩いたらこれどうなのかな、というところがいっぱいあるんですよ。これは新聞なんかでも書いてないし、テレビでも報道してません。マスコミはそういうところを全然見てません。みんながおんなじ方向でばかり見るのは非常に危険です。そういうことを私は言いたい。

### 門脇

仙台というと、「杜の都」。非常にクリーンなイメージが強くて、県外に行くと「仙台はきれいなまちですよね」「緑がいっぱいですよ

ね」という話になり、鈴木さんの今のお話のよ  
うな状況とはとても乖離しているんですが、震  
災後、鈴木さんの実感としてはそんな風になっ  
てきていると。

**鈴木**

正直言って私、夜の仙台なんて歩きたく  
ないですもん。嫌なものばかり見てしまうん  
で。どこのどういう部分を見ると「杜の都仙台」  
なんですか。私、他から来た人間なんで、あえ  
て強く言わせてもらいますけど。ただ、悪口言  
いたいわけじゃないんですよ。私、本当に仙台  
好きになってきてます。本当に好きなら、恋愛  
もそうだし、信用もそうだし、やつぱりきちん  
と本当のこと言わなきゃなんないと思うん  
ですよ。テレビや新聞とかではそういうことは全然  
言ってません。なぜかと言ったら、わからない  
んですよ。外を出て歩かない。

**太田**

つまり、危ない時間に外を歩かないから、  
そこを調査することもできない？

**鈴木**

まあそうです。マスコミがおそらくサラ  
リーマン化してるんだと思います。昔の新聞と  
はちよつと違ってきてるんじゃないかと。見え  
ないものをもっと見るべきだと思うんです。

**門脇**

ツイッターでこのようなコメントが来て  
います。震災の後、仙台の治安が非常に悪くな  
っているという鈴木さんの話を私がツイッター  
に載せたところ、「これを読んでちよつとショッ

クでした。アメリカ・ニューヨークなどで、電  
車やまちのグラフィティをきれいにしたら、犯  
罪が減ったという話があります。みんなできれ  
いにしようという意識は「ふれあい」にもつな  
がりますね」。

私が思うに、それが規制によるものだったら一  
体どうなのかなというのがあるんですね。

**鈴木**

規制というのは私、非常に危険だと思  
います。

**門脇**

そういうことですよ。『きれいにする』  
と言ってもそれが法律によってきれいにする、  
というのは、鈴木さんのお考えも違うと思っ  
たんですが。

**鈴木**

ええ、違います。法律をつくったりする  
のもそうだし、規制をつくってしまうと、「じゃ  
あ規制の中でだったら何をしてもいいのか」と  
いう風になっちゃうんですよ。そうじゃなくて  
ただ単純に「汚れてるな。ちよつと拾おうか」

—奉仕活動というのはそういうものだと思う  
んですよ。つまり自分がやれる時、気づいた時に  
やるというような。そういうのをひとりひとり  
がもうちよつと…。でもだから朝早く起きてや  
りなさいというようなものでもないし。

**太田**

気づいた人がやっけていくものだ。

**鈴木**

そういうことだと思います。

**太田**

多くの人が気づいていくように、自分か

らやろうと思えるように、ということですよ。

**鈴木**

そうですね。雇用の問題もある程度安定し  
てくれば、こういう行き場を失った若者たちが  
たむろするということのも減ってくるんじゃないか  
と思います。旧ユーゴにしてもソ連崩壊の時も、  
職を失った若者たちが相当出てる。サラエボに  
してもモスクワにしても、そういう行き場のな  
い混沌とした状態が続くうちにまちが汚れてき  
て、結果的にオリンピックがあつて10年もし  
ないうちに内戦が勃発したり、ソ連邦もゴルバ  
チョフさんがペレストロイカを進めて、いい感  
じになってきた段階で途中でガタンとなつてし  
まった。けっこう早かつたんですよ。仙台もそ  
れに非常に近いと見ています。そうやってほし  
くないから言ってるわけですが。

仙台は政令指定都市でありまして、5つの区が  
あります。前回も言いましたけれども、5つの  
区の意識というのが相当乖離していると見てま  
す。

**太田**

仙台市が5つの区になったのっていつな  
んでしたっけ。

**門脇**

ここで「まちとアート研究所」こども研  
究員が今回のためにつくってくれた「仙台いま  
むかし」という図がありますので参照しましよ  
う（手書きの地図を出す）。

1987年の11月1日に宮城町が仙台市に編

入されます。そして88年に泉市、秋保町が編

入され、翌89年4月1日に仙台市は政令指定都市となり、現在のようなかたちになりました。

泉市はそのまま泉区に。秋保町と一部が太白区に、宮城町と一部が青葉区に、そして今回津波の被害で甚大な被害のあった若林区と宮城野区もこのときにできました。震災前の人口ですが、青葉区で29・2万人、泉区が21万人、太白区22万人、宮城野区19万人、若林区13万人。

これを書いてくれた中学2年生がこんなコメントを寄せてくれています。「3才の頃から青葉通り沿いのマンションに住んでいます。今回この地図を書いて、長年にわたる仙台市の変遷にびっくりしました」。

彼は泉区が泉市だったのがショックだったと。あるいは宮城町、秋保町がもとは町だったということにびっくりしたと言うんですね。

私は政令指定都市になる直前、87年に大学に入学して東京に行ってしまったので、このへの合併についてはよく知らないのですが、ちょっと調べたところ、泉市との合併にかなりいろいろな産業が参入してあれこれあったとか、宮城町の方でも編入に反対の議員などいたんだけれども、町がなくなってしまうために崩壊的に編入されてしまったといった記述があ

りました。

**鈴木**

円満合併というわけではなかった、という風に私も聞いています。実際に仙台市に合併されてからいいことが多いかというところ、そうじゃないって言うてくる人が多いんですよ。

**太田**

どういう点で？

**鈴木**

例えば青葉区っていうのは、このへんのギンギラギンの通りも青葉区ですけど、作並温泉も青葉区なんです。どう見たって違うところにはしか見えないじゃないですか。市役所の支所にしてもしかり、職安に来たりするのもしごく不便だと。生活保護を受けてる人たちなんかも結局ここまでこなきゃならない。そうすると往復の運賃だけでもえらくかかるんですよ。

**門脇**

確かに市町村合併におけるデメリットとして、行政がカバーする領域が広がった分、不便になるというのがありますね。広い領域をカバーできるようなると、それをメリットとしてとらえる見方もあるわけですが。

**鈴木**

議員というのは時限立法的に合併する前の議員も全部くつつちちゃって、その次に選挙があるまで任期があるとか、結果的に議員がそんなにガバツと増えるとかはないんですけど、いろんな意味でやりづらい部分というのは出てくるというか。

**門脇**

ここまでのお話はいわば「まちづくり」

についてのお話だったわけですよ。私はアートをやっていいますが、芸術家の個人的世界観を開陳するというものではなく、「まちとアート」、英語で言えば「コミュニティアート」という分野で、その地域に住む人と一緒に何かやることでそのまちのアイデンティティをつくっていくとかいった活動を震災前、6〜7年にわたって行ってきていたわけですね。

例えば宮城県の東鳴子温泉とは2006年からアートをやっていたんですが、鳴子町は古川など1市6町と合併し、とてもエリア的に大きな大崎市という市になりました。市長に当選した方も鳴子町とは疎遠な方なんだよねと当初は言っていましたね。ただ合併によってそれほど直接的な影響があったとは聞いていませんが。

**鈴木**

これは私の常連さんの話なんですけど、その方は作並の近くに住んでいて、地震が起きた時は仙台市内には来なかったんだそうです。なぜかと言うと、ものがないから。「だからね、鈴木さん、簡単だよ。国道48号線行っちゃってね、すぐ天童行っちゃって。だから実感って、ほとんどなかった」と。それはたぶんその人が言う通りなんです。ほとんど不便は感じなかったそうです。

逆に太白区、若林区、宮城野区で家がめちゃくちゃになった方もちらほら買いに戻っては来て

いるんですが、「青葉区って何？ どういうあれなの？（震災があったことを）全然みんな忘れちゃってるよ」と言ったり。私から見ると全然違う市の話なんじゃないかと思ってしまうんですね。

彼らが間違っているということはないんですよ。そう感じてるわけですから。作並の人とかはちよっと困ったら山形に行けばいいと。若林やその辺の人たちはそういうわけにもいかない。

**太田** 同じ市内なのに同じ市内な感じがしないということですね。

**門脇** あれに似てますね。テロの時によく報じられたことに、アメリカ人はアメリカがいわば世界の中心だと思ってるから、外国のことをあまり知らないし、勉強しないと。僕が学生の頃——というのは今から20年くらい前ですが——非常に外国に対するあこがれのようなものがあった気がするんですね。私自身、外語大でアラビア語学科で、「後進国」的反骨精神なのかもしれないんだけど、以前は「海外ではこうなんですよ」「アメリカではもうこうなんですよ」みたいな話がよく引き合いに出されたじゃないですか。今あまり聞きませんよね。

**鈴木** 聞きませんけど、最近あやしげなカタカナ語の、電波なやつらってけっこういますよね。「シビリアンコントロール」だのなんだのって。

「マイノリティ」もそうですし、「セーフティネット」ってなんなのやって俺、ものすごい突っ込み入れてやりたくなくなるんですよ。

**門脇** なるほど、なるほど。

**鈴木** 「ハザードマップ」という言葉を知らない人たちがいかにたくさんいるかっていうことを私言いたいですよ。知らなかったために逃げ遅れたとか、そういうケースだってあったと思うんですよ。日本人がなぜそういうあやしげなカタカナなのかという風にも思うし、私が売ってる「ビッグイシュー」なんかにしても正直、頭に来る部分もあるんですよ。日本人がなぜ日本語を大事にできないのかというのがあって、なんでもかんでも英語やカタカナにしているっているのがなぜなのかなと。

**太田** パツと聞いてわからない言葉を使ってるのがかっこいいと思ってるのが不思議ですよ。

**鈴木** 普段からそういうのに慣れてる10代〜30代——40代の私なんかになるとぎりぎりわかるかなっていう程度なんですけど、その上の年代層、身体的にガタがきてる人たちなんかは逃げるのもそうだし、わけのわからないカタカナをバーンと並べられたらそれだけで相当ストレスもたまるし、パニックにもなっちゃう。

**門脇** これは実際、避難所でも言われました。でもきつとそれ「日本語」なんですよね。

「日本語」として生産されている言葉なんですよ、どこかで。

**鈴木** 「どこかで」なんですか。

**門脇** そういう「用語」なんですよ。

**鈴木** 確かに昔、水道のことを「ひねるとジャ

——とか言ったりしましたけど。

**太田** なんですとかそれ。

**鈴木** そういうのがあった時代があったのね。

**太田** 初耳でした。

**鈴木** そんなのは今では恥ずかしくて言えないけど——言っちゃったけど——、そういうんじゃないかって英語をそのままカタカナにドカーンとやっちゃう。「シビリアンコントロール」は「文民統制」のことで、もっと日本語できちんと伝えるべきはずのものなのに、なんでもかんでもカタカナで言うようになっていて、NPOの人たちと話していると、やたらとそういうのが出てくるし、市役所職員もそうです。「おめえらホントにわかんのか、それ」って、俺こないだ突っ込んでやったんですよ。

**門脇** 「ひねるとジャー」はいいですね。

**太田** 「いい」って、何にいいんですか。

**門脇** おなじように今までなかった日本語でも、誰かが「つくった」日本語と「生まれてきた」日本語という違いがあるような気がしますね。「シビリアンコントロール」が誰か偉い人が

つくった言葉だとすると、「ひねるとジャー」は草の根から生まれてきたもので、どちらも新しい日本語なんだけど、その出自が違うというか。

鈴木

若い人たちがいろいろ簡略化したり、わけのわからない言葉を造語でつくっていくじゃないですか。それに対して、こいつらバカだなんて思います。だけどバカだって思いながらも、大人が率先してインチキカタカナをじゃんじゃん使ってきた結果が、若い人たちが「俺たちだっじゃあこういう風に言っちゃおう」になっただんじやないかと思うんです。

太田

私はそういうのを聞いていていつも思うのは、言葉を選ぶということにもなるんですが、そういう言葉を選んじゃう人って、話をするときに本当に相手に伝えたいかどうかというところ、あんまり本気で伝えたいって思っていないんだらう。本当だったら相手に合わせて伝える言葉を選ばなくてはならないのに、知ってる単語をただ置いて来て、というのは、単に言いたいだけなんだ。

門脇

それはありますね。自分の世界をつくるんですよ。「シビリアンコントロール」もそうだし、若者造語も自分の世界をつくるって確認してるんですよ。

鈴木

面白いのが、そういう言葉を若者たちがひとり使い出すとじゃんじゃん使い出して、そ

れもすぐく日本人的なんですよね、付和雷同というか。

太田

パッと伝わらない言葉を知ってる者どうしのネットワークというか、連帯感みたいなものを楽しんでますよね、たぶん。

鈴木

私、連帯感とかみんなでなんかやろうというのが大嫌いなんです。話が別になっちゃうかもしれないんですけど、最近大学で、弁当を食べる仲間がいない人がトイレで食べたりするらしくて、実際うちのお客さんでも大学生の子が何人かいるんですよ。自分だったら、今風の言い方で言えば「ウザい」ような連中といっしょに飯なんて食うのは金輪際ごめんなんですけど——だって嫌いな人間と飯食ったって楽しくも何ともないのに、それを合わせようなんて思うこと自体がおかしいと思うんですよ——だけど、彼らの中ではそういう誤解のようなものも全部取り込んじゃって、仲間のようには振舞わないと飯も食えないような感じだと思ってるんですよ。

門脇

それは今回のテーマである「まちづくり」「コミュニティ」に関して非常に本質的な議論じゃないかと思えます。コミュニティというは、みんなでまちやグループをつくるうねと開かれているようにいて、その一方で求心力を持たせないといけないものでもあり、非常に抑圧的な

ものでもある。非常に矛盾する方向性をもった活動なわけですよ。

「仙台ダストスポットミステリーツアー」にしても、仙台のまちをきれいにしようということ、鈴木さんは群れるのが嫌いなのに、仲間と連帯してそれを行っているんですよ。

鈴木

まあ矛盾です。

太田

門脇さんがやってる、アートを使得って地域ごとのアイデンティティをつくるというもので、市町村合併というのはある種アイデンティティを持つてるものどうしをまとめちゃってるというやり方ですよ。これは逆行ではないですか。

門脇

市町村合併に賛成の人は、「いや、多様な人が集まることによってより一層みんなのアイデンティティが際立つんだ」みたいな話をするようです。

鈴木

その割に似たような地名とかつくっちゃって：南アルプス市なんてふざけんなと思いましたがね。大崎は昔、大崎地区でしたからこれはいいんですが。

門脇

先ほどの話に戻ると、仲間をつくるということは必要でありながら、仲間と群れることに対して違和感もあるわけですよ。答えを先取りして言えば、「オープンな仲間をつくる」という話を今しているんじゃないかと思うんです

けど。

**太田**

思っていることがひとつあって、行政の単位とアイデンティティをもった地域って分離して考えた方がいいんじゃないかなと。あくまで行政サービスを行うための行政区分というのと、こういう人たちがいる、こういうのをやってる仲間がいるというネットワークはそういう地理的条件にはもう乗っからなくなってると思っていて、それこそ地球の裏側にいる人とやり取りをしちゃうような状態なので。だから仙台市を合併もありましたけれども、これから仙台をどうしていくかを考えるときに、必ずしも行政単位でどうこういうだけではなく、集まる人が集まってやっていくようなものがむしろ本来の意味での精神的復興の中心になるんじゃないかなと思っております。

**門脇**

コミュニティという場合、その土地に住んでいるからという地縁的なコミュニティと、こういうことをやりましょうということが集まる目的解決型のコミュニティとに大別できると思うのですが、地縁的コミュニティの強い地域に入ると流動性の高い仙台などではあまり考えられないような常識があるわけですね。その地域に住んでいるんだからおつきあい出ないといけないとか、あつちの顔を立えないといけないとか、そういうことがあるわけです。いった

んはそこを離れても、生まれた土地に戻って来てそこに骨を埋めるとというのが当然のように思っている人と、それが全然当然じゃない人というわけですよ。

**太田**

鈴木さんはちなみにどうなんですか。もともと山形生まれじゃないですか。けっこう各地を転々として今に至るわけですが、やっぱり自分の戻るところは山形だという意識はあるんですか。

**鈴木**

いや、ない。山形は好きだけど戻れない。だけど仙台にいつまでもいるかどうかは、これからの仙台の変わり方によるというか：正直言って、全国の中で仙台が一番モラルが悪いと思う。首都圏の方がまだましかもしれない。「杜の都」というのにちよつとあぐらかき過ぎ。こんなことやっていると他の東北の県から仙台ぶった切られますよ。

**太田**

私、仙台歴まだ3年ちよつとで、生まれは神奈川なんですけど、ずっと住んでいる仙台市民の方にとって「杜の都」という言葉はピンと来る言葉なんですかね。「そうだ、うちのところは杜の都だ」というのか、それともあくまで観光用に作られた名前だと思ってるのか、どつちなのかというのに少し興味があります。

**門脇**

観光つぽいような気がしますけどね。僕は幼稚園から高校生まで仙台市のお隣の泉市

(現仙台市泉区)に住んでいました。その後9年からまた仙台なので仙台歴は長いです。正直なところ、他の地域のために骨身を削って一生懸命やっていますけど、仙台のために働こうっていう気はあんまりしないんですね。別に仙台が嫌いとかいうことではないんですよ、全く。そうじゃなくて、お付き合いがないんですね。

**太田**

「付き合いがない」というのは、仙台で門脇さん以外にそういうのをやってらっしゃる方がいないということですか

**門脇**

今回、震災が起こったことによって、仙台でチャリティコンサートをやるから手伝ってくれとか、あるいは鈴木さんに出会ってネット版やろうとか、震災後にわかに仙台で何かやる機会が増えてきたんですが、それ以前は入り込む余地がないような…。僕の動きが悪いのかもしれないし、同じようなことをやっている人が少ないというのがあるのかもしれないんです。みなさん一生懸命切磋琢磨されて絵や彫刻などを作られている立派な方ばかりで、まちで何かやるうとか(やってもただ置くだけとか)、売れないことをやっても仕方ないとかかもしれないし。

**太田**

自分の専門のことに特化してやってる人ばかりだと。

**門脇**

まあ、そうですね。

鈴木

金、からまねえと動かねえ人間があまりにも多過ぎるんじゃないかな。ボランティアとか言っても、私ボランティアやってますよみたいなこれ見よがしなヨシャツとか着てる連中見るとぶっ飛ばしたくなつから、ホントに。企業がやってるやつで、はつきり言ってた目立ちたくてやってるだけ。ゴミ拾いなんて拾ってるふりしてるだけ。あんなのが多過ぎるんですよ。私やってます的なのが多過ぎるんですよ。私、怒ってますよ。

門脇

鈴木さんのレベルから言うと本当にそうなんです。鈴木さんはなるべく見えないようにしてゴミを拾ってる。手前味噌になってしまってますけれど、僕も震災前から金にならなくても「まちづくり」に参加してるんですよ。震災後、いろんな手伝いしてるけど、変わった気がしないんですね、やることが。もともとやっていたと言えばボランティアをやってたんですね。

鈴木

ボランティアって、自分のやれる時間、無理せずやれる範囲内でやればいいんですよ。本当はみんながそれぞれほんのちよこつとだけ考えれば、もうそれで終わっちゃうんですよ。それがほんのちよこつとすらもやだから。あとボランティアやってる人っていうのが、だんだ

んとんがっちゃって、どんどん「これも、あれも」みたいな感じになっちゃって。だけどそれってもうボランティアじゃなくて…。

太田

自己顕示欲みたいになってると。

門脇

何をするにせよ自分なりのモチベーションがあるわけですよ。さっき僕、震災前からボランティアやってるんですよと偉い人みたいに言いましたけど、そうじゃなくて僕の目的、モチベーションは面白いことをやりたいということなんです。自分の思う面白いことができるんだから、金にならなくてもある程度仕方ないというような——それをうまく逆用されていくところもあるわけですが——だからできちゃうし、続いているし、自分が面白いと思わなければやらないという、非常にたちが悪いんですけど…。

太田

いいんじゃないですか。

門脇

そこなのかと思うんですよ、まちをよくしよう、自分のまちをどうにかしようというモチベーションがどこにあるかだと思うんですよ。例えば商売を繁盛させようという目的から自分のまちを好きだということ、自分の住んでいるところが汚いのは嫌だという鈴木さんの取り組みとは、もしかしたら現象的には同じように見えるところがあっても違うものじゃないかと。

鈴木

でも、いいんじゃないですかね。みんな考えは違うわけだし。これ、あんまり言ったことないんですけど、なぜこんな変わったことばかりやっていたり、自ら進んで売れなくなるようなことばかり言ったりするのかというところ、私、仙台をめちゃくちゃ好きになってきてるんですよ。つまり、仙台と恋愛してるんだと思うんです。だからそれだけきついこと言わないと。定禅寺通りの私の店でやってると、実によく見えてしまうんです。朝早くから夜遅くまで売ってますし、それ以外に関しても生活の中に定禅寺通りがあって、私は定禅寺通りと仙台市が非常に好きです。でも青葉区だけっていうのはどうも違う。だから他の4つの区も同じようにっていうのが自分の中であるんですよ。言い過ぎってしまう部分はあるのかもしれないけど…。

門脇

その鈴木さんの仙台への愛情はどこから来るんですかね。

鈴木

やっぱり、住んでるところを愛するところか：山形生まれですから、ベガルタは絶対応援できませんけど。仙台にお世話になって恩義を感じてますし、それだけでなく仙台という市をどんどん好きになってきてます。何とかしてモラルということに関してもうちよつと現実を見てほしいというか。

門脇

逆に言うと僕は仙台に愛情を注げないん

ですよ。じゃあ仙台以外のまちや人に愛情を注いでるのかと言われるとどうなのかわからな  
いんですけど。そう考えると、僕がなぜ自分の  
住むまち仙台に愛情を注がないのかを解明でき  
れば、他の仙台をどうでもいいと思ってる方  
についても自分の住むまちを愛し、モラルを高  
める方法を見つけることができるのかもしれま  
せんね。

**鈴木** 富谷、大衡村それから大和町、川崎町は  
なぜ合併しないのかと言ったら、仙台とくっつ  
きたくないんですよ。メリットがどうこう言う  
前に、「俺たち仙台になりたくない」と思ってる  
んですよ。「俺たちは宮城県民だ」と。つまりそ  
れだけ彼らは自分の地域を愛しているんですよ。  
それを悪魔に魂を売ってるような、何やってる  
のかわかんない仙台市民になんかなりたくない  
と思ってるんです。普通だったらよらば大樹と  
いうことでくっつくわけですが、くっついてこ  
ないじゃないですか。絶対嫌だと思えますよ。  
村田にしてもそうだし。秋保なんかだっけくっ  
つきたくなかったんですよ、本当は。温泉収入  
もあるわけだし。結局なんだかんだ言っ  
て押し切られてしまって編入されましたけど。  
たぶん仙台を愛せないという理由に、仙台に  
住んでいながら仙台をあまりに知らな過ぎる  
というのがあるとは思いません。

**門脇** ありますね。

**鈴木** 仙台って、本当はものすごくいいところ  
なんです。だけどもそれを知らない人があまり  
に多過ぎます。だから自分の住んでるまちに愛  
情を注がないんじゃないかなと思います。人口  
多いからなんて関係ないです。

**門脇** 確かに、よそのまちに行くともものすごく  
リサーチをするんですよ。例えば、今度足立区  
で企画やるとなったらツイッター上で足立区  
のツイートをがーっと集めるわけです。

**太田** どんな人がどんなことを考えてるか。  
**門脇** ものすごくひどいツイートが集まったり  
するんですけど、例えばひどいツイートが集ま  
るほどに弁護したくなって逆にいいところを見  
つけてしまったりするんですよ。

**太田** そういふのは仙台ではやったことがな  
い？

**門脇** ないですね。自分の住んでいるまちだと、  
仕事に行って帰るだけだからそれ以外の「遊び」  
の部分がない。

**太田** すべてが日常として当たり前になっちゃ  
つてるといふことなんでしょうね。

**門脇** 無駄のない動きしかしないのかもしれな  
い。  
**鈴木** ただその一方で、あそこ（※定禅寺通り  
と一番町四丁目商店街が交差する鈴木さんのビ

ツグイシューの売場）で商売やっていると、毎週  
毎週つまらないイベントをじゃんじゃんやっ  
てるんですよ。金だけかけてよくここまでつま  
らないイベントができるなと毎回感心して  
るんですよ。

**門脇** 確かにあそこに立ってる人が一番よくわ  
かりますね。

**鈴木** お祭りもはっきり言ってどこかのまねみ  
たいなものばかりで、じゃんじゃんやっ  
ただけど心に響くのはほとんどないですよ。  
「雀踊り」なんかもそうだけど、あんな情緒の  
ない踊りなんて、はっきり言ってないから。悔  
しかったら富山の「おわら風の盆」みたいな、  
ただどんちゃんするだけでない、そこでしかで  
きない、そういう祭りを考えるべきだと思う。

お祭りって重要なんです。人寄せのために毎  
週じゃんじゃんやるんだけど、人ってバカじゃ  
ないですよ。仙台って、最終的になんだかんだ  
言っても「牛タン」です。

**門脇** そうですね。  
**太田** 間違いない。

**鈴木** この人たち、牛タンしかないのかなあ、  
みたいな。雀踊りなんて言う人は誰もいないし、  
七夕をあげる人もほとんどいない。伊達政宗は  
ちよつと違うし。でも他から来た人から「仙台  
には何もない」と言われると私、ものすごくか

つと来るんですよね。

「仙台ダストスポットミステリーツアー」をなぜ始めたかと言うと、ビッグイシューを仙台の路上で売り始めて2日目に、京都と仙台の方おふたりのお客さんが来ましてね、こう言われたんですよ。「店長さん、仙台って、杜の都仙台って言うけど違うね。ゴミの都仙台だね。朝方は無法地帯仙台だね」その時に頭にきまして、その晩は悔しくて寝れなかったんですよ。これは仙台だけの問題じゃない。東北の玄関口である仙台を侮辱されたわけです。それと同時にいっしょにいた仙台市民が「だって仕方ねべ。だって仙台、人いっぱいいるし。ゴミゴミしててみんな他人のことなんてどうでもいいんだ」と。その程度の意識なんです。それで頭にきて、だったら仙台市民なんか任せておけないから、俺は俺で腐れ連中とは違うぞとやり始めたんですよ。だからボランティアのつもりなんて全くないです。仙台市民に対する皮肉です。本当にそうです。「杜の都仙台」なんていうのにあぐらをかいてたら、これからもつと悪くなると思います。

今、震災の影響で100万人を割つてると思います。でももっとガタガタ減つてくると思いますが。住みづらいところになんてみんな住みたくないですもん。かなり考えないとだめだと思

ます。

**門脇** 県外に行くと、「仙台は住みやすいまちです」って言われるんですよ。

**鈴木** ふうん。

**門脇**

今の鈴木さんのような話を仙台市民は聞いてない。仙台についていいことしか聞いてない。

**太田**

いいことを言われてるか悪いことを言われてるかそれ自体に関心がないんじゃないかという気がします。

**鈴木**

どうでもいいんですよ。

**太田**

あくまで自分が住んでる場所ではないのかなと。

**鈴木**

それは非常に怖いです。嫌だというんじゃないんですよ。どうでもいいんです。だから困るんですよ。

**門脇**

このへんで会場の方にも仙台についてどう思われているかお聞きしたいと思います。

**会場**

仙台っていうと青葉城。東北の方々が集まってきているところですね。最初の印象はよくなかったです。出身は九州で、東京からこちらに移って来ました。環境的にはいいと思うんですよ。自然環境とか。娯乐的にもスキーとかゴルフとか、やりやすいところですよ。ただ人間はちよつと最初たいへんでした。

**太田**

職場とかですか。

**会場**

そうですね、転勤で来まして、こっちで結婚して、こっちに永住という感じですよ。今は嫌いじゃないです。でもうちの息子は仙台で生まれたんですが、札幌の大学に行つて、札幌の方がいいって言ってます。

**太田**

私も以前福岡に住んできたことがあって、大学のときに3年間くらいいたんですけど、仙台にも今3年ちよつと住んでいて、仙台は住みやすいまちだなと思つたんですよ。適度に大き過ぎず。

**会場**

都会としてはね。

**太田**

はい。ただ、愛着がわくかと言うと正直あんまりわいてなくて。福岡の方がいいという感じがするんですよ。

**会場**

愛着つておそらく、人間関係だと思うんですよ。自然がいいとかでなく。そこに人となりができれば、おそらく愛着がわくと思うんです。ただ学生でもけっこう仙台がいいっていうのはいるんです。故郷っていうのは両親がいるとか、親戚がいるというのでそこに愛着があると思うんですよ。仙台は逆に言うところ、長くないらばそうなりませう。

**太田**

短期間ではそうならないと。

**会場**

そうそう。九州は情が深いんですよ。関西なんかもそうですけど。だから受け入れもす

るんですよ。すぐに友達になれる。

**太田** 僕もそれは思いましたね。

**会場** 何でも話をする。ところがこちではな

かなかそれがそうはいかないというね。でもその壁を越えれば親戚みたいになってしまう。

**太田** 何年くらいでその壁を越えました？

**会場** 20年くらいですかね(笑)。

**鈴木** 俺は2ヶ月ですね。

**太田** そんなあつという間だったんですか。

**会場** 鈴木さんは山形だし、東北の風土というものの中で育ってるし、しかもいろいろ苦労してるしね。

**鈴木** 私、去年の7月23日に勾当台公園でひっくり返ったんで。そこからビッグイシュー始めたのが8月12日。9月初めくらいには仙台がけっこう好きになってたんですよ。腐れた連中ばっかりなのかなと思ってたら意外とそうでもないし、だったらダメな部分をどんどん掃除していけばいいのかなと考えたんですよ。自分は嫌なところで「はい、やめた。次いこう」というよりも「だったらどうにかしてやろう」という方で。

金沢には古くからまちを変えてきた3つの人種がいるんですよ。「よそもの」「ばかもの」「わかもの」という言葉なんですけど、その通り、私「よそもの」です。で、ここまで言っちゃうぐ

らいだから「ばか」通り超してます。若いかわかりませんが、若いつもりでいます。どこまでできるかわかんないけど、徹底的に嫌われてもいいから、言うべきことをじゃんじゃん言うおうという思いでいます。

**太田** 「よそもの、ばかもの、わかもの」という言葉はすごくピンときます。以前、福岡にいたときに学生の立場でいたんですけど、福岡やそこから南に行った八女市の地域のイベントとかにも顔を出したりしていたんですが、神奈川県から来た学生だから「よそもの」「わかもの」だし、大学の中でも制作のことなどいろいろ活発にやっていた「ばかもの」だったので。突然、

福岡の田舎に行ったわけなんですけど、現地の人たちと「なにおまえそんなばかなことやって」というのがネタになって、本当に仲良くなって、外部の人間でしがらみの中に取り込まれることなく言うことは言えて、お互い発見が生まれてきたりとかいうことがあったので、それは本当にそうだと思いますね。

**門脇** まちづくりではそうした人がキーパーソンになるということですね。それではここでス

**太田** カイプゲストの登場です。

**全員** その前に私、時間で(退場)。

**門脇** お疲れ様です(拍手)。  
この「定禅寺ジャーナル ウェブ版」は

途中出入りも自由ですので、今すぐ来たい方はおこしください。

今日のスカイプゲストは滋賀県から守山市にお住まいの西川眞樹さんです。西川さんはお隣の栗東市——競馬のトレーニングセンターがあることで有名ですね——にある「栗東芸術文化会館さくら」の100人を擁するボランティアコミュニティのリーダー的存在です。昨年度一年間かけて、いっしょに文化庁の創造都市モデル事業という助成を受けた「りつとう元気創出コミュニティアートプロジェクト」という企画を行いました。この栗東というまちもさまざまな問題点をはらんでいるということでのあたりをお聞きしたいと思います。西川さん？

**西川** こんにちは。西川です。栗東市の問題として、「さくらボランティアコミュニティ」内で出て来る話題としては、市を国道1号線が通っていて、こちら側と向こう側で交流がないなあと。こちら側(「さくら」のある北側)は新しいまちで再開発も行われ、新しい人たち、みないな。向こう側：(電波の状態が不安定で一部不明)

**鈴木** さっきから電波なことばかり言ってたから飛んじやったのかな。

**西川** ……しゃべっても、いいのかな？

**門脇** やっと電波の状態が安定してきました。

西川 今まで聞こえてなかった？？ こんにちは

鈴木 は、西川眞樹です。よろしくお願いします。

西川 こんにちは、鈴木です。どうも。

鈴木 はじめまして。

西川 はじめまして。

西川 顔が見える方が安心するんですが（※スカイプのビデオ通話ではなく、音声通話になっている）

鈴木 私、人相悪いので見えない方がいいと思います。

西川 今まで（Ustreamで）見てたんですよ。

鈴木 （笑）

鈴木 （笑）すみません、ろくなこと言わない

西川 んで。

西川 うなずいて聞いてましたよ。ああ、わかるわかる言うて。私も鈴木さんと思いが重なるところがいっぱいあって、言えないようなこともいっぱい言うてはるんで（笑）。

鈴木 （爆笑）刺されても別に構わないと思っ

てるんで。右側刺されたらまだ左側残ってますから。死んでもたぶん3日くらいで復活しますから、ゾンビで。それくらいでやってるんです。はつきりものを言うというのが自分の方針なので。言えない人たちもたくさんいますから。代弁というわけではなく勝手に言ったりしてますけど。

西川 今まで聞いていて、行政やしがらみという話が出てきましたが、行政だからできること、行政だからできないこと、しがらみがあるからできること、しがらみがないからできることとかいろいろあると思うんですよ。震災後、いろんな人がいろんなスタンスでことを起こしていくという気に今みんながなってるんじゃないかなと。それぞれの立場でしか言えないこともあるし、逆にそのしがらみがないからこそ言えることもある。鈴木さんが言うてくれはったようなことを聞いて、私は今この地域でおなじように言えるかな言うたら言えない場所もあるし、言える場所もある。日本でみんながいろんなこと思いながらいろんなスタンスで動く時今大事なタイミングなんじゃないかなということを感じてます。

鈴木 なるほど。しがらみがある、ないか？

門脇 東北と関西の違いはありますか。

鈴木 ないと思いますよ。自分は滋賀も守山も知ってるから。サッカーが強いところとか、

井原正巳が守山だったとか。滋賀ってとてもいいところなんです。滋賀も琵琶湖沿岸と草津

線沿線から甲賀の方、三重とか奈良とかの県境

周辺の滋賀の意識はかなり違うと思うし、けっこう難しい県なんじゃないかなと感じてます。

西川 関西圏ではあるんですけど東海地区ともくっ

いてますから。和歌山なんかもけっこう近かったりするし。不思議なところなんです。す

ぐ琵琶湖だと言いますけどそれだけじゃない。そういう奥の深さがある県だと思うんですよ。

門脇 西川さんは、滋賀は好きですか。

西川 滋賀はけっこう好きですね。好きですよ。

門脇 どのへんが？

西川 私、よそに住んだ覚えがないのでこし

か知らないからあれなんです。自然が近くにありーの、ちよつと行けば京都がありーの。行き過ぎず、古過ぎず、みたいな。

門脇 西川さんは家庭を投げ捨てたようにボランティア活動に取り組まれているんですが？

鈴木 投げ捨てたようにですか。

門脇 旦那さんも仕事の枠を超えて、それこそお子さんまで含めてボランティアを？

西川 それちよつと言いつつ過ぎでしょう。家庭は捨ててませんよ。

鈴木 門脇さんは大げさ過ぎるんですよ、いつも。

西川 ボランティアは家族で参加しています。

門脇 そのエネルギーの源泉というのは何でしょうか。

西川 さきらのボランティアに関しては、非日常が味わえる？ 劇場ならではの。

門脇 なるほど。

西川

そういうことで始めたんですが、去年あたりからまちづくりを意識させられるような取り組みになってきて。もうひとつは、主人がものすごい仕事仕事で休みがない人なので、私と子どもだけの生活というのが、子どもたちにとって絶対あかんというのがあって、いろんな人に接してもらおうと。さきらのボランティアに行くといろんな年代の人がいるし…。

門脇

お子さんの教育のために？

西川

自分も楽しいし。そういう仕組みがとってほしいなと思ったので。

門脇

なるほど、非日常。

鈴木

そのへんが自分とちよつと違うかなと。ボランティアと構えてやってるわけではないんですが、ほんのちよつとという感じでやってるので、自分の場合は非日常というよりは日常だと思います。あまり無理しないというのが私の奉仕活動の基本線なものですから。じゃあ楽しくないかと言うと、楽しいです。楽しくない奉仕活動は絶対やりたくないのです。

門脇

「仙台ダストスポットミステリーツアー」

は若干、非日常的ですよ。

鈴木

動く「ドラクエ」というか、アナログ型RPGというか。何が出て来るかわからないし、いろんなダンジョンが出て来るし、もちろんラスボスも存在するし。ただしそれが見えるか見

えないかというのは——ファンタジーの世界と

いうこともあるし自分は子どもなので——ラスボスがゴミの中に見えたりするんですよ。妄想になるかもしれないけど。そうすると毎月一回の催しが非常に楽しみになるんですよ。身銭を切って「ダストマイスター」を3人ないし4人雇って、それ以外は一般市民とか常連客を引っ張ったりしてやるんですけど、毎回おんなじって感じじゃないし、メンバーも変わるし、確かにこれに関してだけ言えば非日常的なのかなど思うんですけど、普段からゴミ拾いをちよちよこやっているとあまり非日常的という感じではないですね。

門脇

鈴木さんが一番最初にヒントとして言われていた、仙台の若者も実は何かやりたがってるんじゃないか、何かしたいんだけどそれが見つからないというくすぶりが、彼らを中途半端な状態に追いやっていくけれども、例えば西川さんが言われたような非日常がそこにあれば、違う方にエネルギーが向かう可能性がありますよね。

鈴木

あります。だから何かやりたいというのであれば、どんどん大人が手伝っていくべきだと思うし、彼らだけでやってもいいし、自分がやっているこういう表現活動の中でお手伝いできることがあればいくらかでもお手伝いできるし。

若者って私たち大人を見るんですよ。くすぶ

っているというのは、私たち大人に失望してるんですよ、おそらく。そうしないためには少数の人間でもいいから、若者との対話もそうですし、いろんな意味で若者にぶつかっていくっていうか、そういうのが必要だと思います。

門脇

やっていきましょ！

鈴木

国分町なんかもそうですし、路地なんかでたむろして、うんこ座りなんかしてるような若者たちを見ると、怖いとかじゃないんですよ、私。かわいそうになるんです。年齢とか体力とか、そんなにいらんだったら私がもらいたいくらいなんですよ。何かやりたいと思ってもそれがわからないとか、できないと思ってるんです。でもそんなことないです。私が去年、仙台に来たばかりのときには何もありませんでした、全く。つても全然ないし、山形に実家はありましたけど電話はできないし、本当に孤立無援です。だけど人間って、困った時つてすぐ知恵が出て来るんですよ。絶望とか考える前に少しでもいいから別のことを考えるべきです。困つてると意外と知恵が出て来ます。

門脇

そこですね。

鈴木

湾岸戦争の時に、後にアメリカの国務長官をやったパウエルさんというのが陸軍の総司令官だったんですけども、その人が、寝る前

にこんなことは不可能だなと思ったことも、ひと寝入りしたら実はたいしたことではないことに気づくというようなことを言っているんですよ。パウエルさんは元軍人ですけど、戦争やっちゃだめだとか、軍のトップだけあってさすがに深い言葉だなと思っていまして、座右の銘のひとつに入れてるんですよ。全面的にダメだと思ってたら、そこで一晩寝てみればいいんですよ。寝て起きると腹が減ります。減ったら飯食って、腹がふくれたらまた考えってちよつと変わってくるんですよ。

**門脇** それでも夢はふくらまないっていう子も多いと思うんですけど。

**鈴木** じゃあ私のところに来てください。

**門脇** そんなですよ。周りに感化してくれる人がいないのかもしれない。つまり、「がんばればできるよ」と言っている人はお金も能力も持って、でも自分は持っていない。だからおまえになんか言われたくないということなのかもしれない。そこに家もすべて失った鈴木さんが「それでも面白いよ」と言ってくれろと…。

**鈴木** 金なんてない方がはつきり言って面白いですよ。金ないし、家ないしって言ったなら、怖いものないですよ。だってどこにでも行けるわけじゃないですか。こんな腐れ仙台なんて嫌だと思ってたら、どこへでもトン面できるんですよ。

よ。しかも家族もないから切った張ったもできないし。最高でしょ？ と、思うんですよ。だけどそう思えないってことは、どこかにやっぱり未練があるんじゃない？ 未練があるんだったらその未練をきちんと考えればいいんですよ。それも考えられなくてうじうじ言うんだったら、ドブに落っこちて死んだ方がまだましです。強い人たちばかりじゃないです。弱い人が多いし、自分だって弱いところがいっぱいあります。弱いんだったら、弱さを前面に出して世界一弱い人間を目指すとか。そうすれば取材だって来ますよ。バックミュージックに中島みゆきかなんかかけて。

**門脇** アートやってる人がその典型じゃないかと思うんですよ。ものすごく劣等感があり、何もできない。でもたまたま何かを作ったり描いたりできて、そこで自分の趣味的世界を構築していったら面白いと言われたとか。

**鈴木** いいと思いますよ。そうしてはまってくと、人間関係とか吹っ飛びますよね。人間関係吹っ飛ぶって、最高なんですよ。嫌なやつと妥協して付き合おうなんて無理なんですよ。自分が嫌いだって意思表示したら、向こうだって嫌いなわけだから、嫌いな人から嫌われるって、これだけ最高なことないですよ。孤立しますよね。孤立するとそこにいらなくなるじゃない

ですか。すごい素敵だと思うんですよ。しがらみはぶっ飛びますから。その時点でまた考えればいいんですよ。

アートをやってる人たちをうらやましいと思うのは、私、小学校のとき図工6だったんですよ。6というのはつまり1にもならないと。鈴木、おまえの絵、どれもみんなおんなじだ」と。羊か山羊にしか見えないんですよ。

**門脇** アートと言っても、私のような活動をしていると、スキルがどうこうというよりも、鈴木さんの行動、パフォーマンスの多くがいわばアートの範疇になるんですね。

**鈴木** パフォーマンスなんて、単なるイタイ人間ですよ、私なんて。

**門脇** どれだけ吹っ切れているか、それを言葉だけじゃなく実際にやってしまっているところ、ところが、これからの「希望」になっというに思います。そういうことで僕もウェブで鈴木さんを紹介したい、追っていききたいと思ってるんですよ。

**鈴木** そろそろぶん殴られるかなあと思って見てるんですけどね。

**門脇** 案外どんどん支持者が増えていくような気がしますけどね。

**鈴木** それも面白くないなあ。

**門脇** 時々強敵が現れないとね。

鈴木

昔から言うじゃないですか。男って外に出たら47人の敵がいるって。俺、そういう方がいいんですよ。あなたのことわかるわよって。自分という人間で、ひとりいればいいんですよ。自分は路上に転落して、本当にひとりきりになった時って、コンビニでもの買って、会話するだけでもものすごくうれしかったんですよ。孤独ってそういうもんです。今、家の中でニートになつてるとか、引きこもりになつてるとかで「ボク、ワタシ、ひとりきりなんだ」とかいっているじゃないですか。そんなのうそですよ。だって家、あるじゃないですか。ホントにひとりきりだとか孤独というのは、周り見たら誰もいなくて、地下道にビニール敷いて寒い中ブルブル震えながら、それでも電気毛布のつもりで妄想して寝ようとか——それはそれでけっこう面白かったんですけど——そういうものなんですよ。

門脇

そういう鈴木さんの生き様に触れられれば、行き詰っている人の可能性が開けるといえるか——別に金持ちになるとかじゃなくて。

鈴木

楽しいことをひとつ見つけるべきじゃないかな。避難所に行った時も、最初の10日間くらいは飲む食う、着る、あと電気、それくらいだったんですよ。ところがだんだん要求が出て来て、例えば若い男の子がもぞもぞと

後ろからやって来て「あのー、すみません」

「何?」「エロ本」。あとランプだとか。そういう余裕が出て来るようになったのかと。娯楽やらないでがまんしてられる期限で10日くらいだったのかなと。だから何でもいい、楽しめることというか。確かに家族が亡くなって、楽しむことができないとしても、それでも今から生きていかなきゃならないわけじゃないですか。生きていくためには楽しいことって、絶対必要です。

門脇

もしかしたらその「楽しいこと」でイメージされる内容が違うのかもしれないですね。

鈴木

よく世知辛い世の中だとか言いますけど、ワタシ、ああいう言い方って嫌いなんです。なんでかって言ったら、世の中なんて世知辛いに決まってるんですよ。自分で動かなかつたらその世知辛さなんて打開できないんですよ。自分だって仙台に来て、ホームレスになりました、落ち込みましたって、ひとり上手でそのへんでふらふらしてたら、たぶん今頃こんなところで言ってもらえません。だけど自分がホームレスになったことはチャンスだと考えて、勉強がいつぱいできる、しがらみは何にもない、といろいろ考えて来たんですよ。だから落ち込む暇もなかったし、どうやったら飯引つ張れるかなとか、狩猟民族になってました。日本人で農耕

民族だけれども、私には狩猟民族の血もあった

のかなとか思いながらいたんですけど。困った時ってそういうことになると思うんですよ。つまり、弱い人間だって窮鼠猫を嚙むとあるように、本当に追い詰められたらやっぱガンと行くんですよ。

それが悪いかたちでやってしまったのが秋葉原の殺人だったりするんですけど、そういう力があるんだったら、それをもっと違う面を持って行ければ、もしかしたら彼だって俺とここで話をしていくかもしれない。

門脇

それを何とか「面白いもの」として行き詰っている人に提示できないか、ということですね。それがいわゆる「まちづくり」だったり、ゴミ拾いだったりするわけで、言葉で言うとなつちやうんだけど、ひとつ欠点としては、まちづくりとかゴミ拾いという言葉にはあんまり楽しさやロマンを感じないですよ。それが実際に参加してみると面白かったりロマンを感じたり、ミステリーだったりアートだったりするわけですけど。でもそのへんなんじゃないでしょうか、行き場のない人を救うのは。

鈴木

彼らが面白いと思つてチョイスするだけの魅力がないのかもしれないし、眼中にないのかもしれないし、いろいろなことが考えられるわけですが、意外と楽しくなさそうなのに楽し

いものって転がってるんですよ。

何も金使うだけが楽しさというわけじゃないし。確かに金を使って楽しむこと、映画に行ったりカラオケに行ったりすることとか、非常にいいことだと思います。お金が回るってことは、悪いことじゃありませんから。だけど、金使えなかったら遊べないって考えてるのはおかしい。金が使えないと工夫というものが出て来るんじゃないでしょうか。

それは楽しみもそうだけど、家での生活にも言えると思うんですね。料理なんかにしても、仙台の人は工夫が足りません。これは「ハッピー通信」(※鈴木さんがビッグイシューに付録としてつけている大人気のミニコミ紙)でも書いてたんですが、定禅寺通りの私のお店で見ると、出来合いのものを買う女性が多過ぎるんですよ、年代問わず。「こいつら包丁なんか持ったことねえな」とか「こんな女と絶対結婚したくない」とか考えちゃいます。出来合いばっかりしか出さなくて、しかもパックでなんか出て来たら、私、ちやぶ台ひっくり返しますよ。だってバカにされてるみたいなんじゃないですか、そんなの。

**門脇** うーん。  
**鈴木** 昔のお袋さんたちには工夫というものがありません。下手なら下手でもいいし、工夫し

てこしらえて、それを食卓に並べてたんですよ。

だからお袋の味とか愛情のこもった料理とかいうのがあったんです。それがとりあえず高いけどあんなパックで出て来て、「柿安」だの「新宿さぼてん」とかぱーっと見えたら、俺たぶん、ぶん投げますよ。食いたくないですもん、そんなもん。

**門脇** なるほど。

**鈴木** 時間がないからって言うのは理由になりません。先日、大学生から「2年の途中から就活しなきゃなんないから俺勉強する暇ありません、鈴木さん」って言われたんです。そこで「おめえ、なめてんのか」って言ってやったんですよ。時間なんて作るもんです。私だって店やって、なんだかんだやって、毎日原稿もめっちゃくちゃいっぱい書かなくちゃならないんですけど、本読む時間って絶対必要なんで、月40冊という読書は必ず確保しています。その他にも楽しいこととかもいっぱいあるから、寝る時間削ってでも時間を作らないといけない。それも工夫なんですよ。

自分も自炊やってますけど、食費は普通の家庭の30分の1以下くらいだと思います。今月もたぶん2000円かかりません。

**門脇** えーっ！  
**鈴木** そのへんに生えている野草とか採って来

て、それを天ぷらにしてみましたとか。やつぱり工夫するんですよ。

**門脇** この間の「ハッピー通信」に載っていたメニュー見ましたけども：「サンマのひつまぶし」でしたっけ。

**鈴木** 「ひまつぶし」です。

**門脇** ちよつとやってみたいですね。

**鈴木** あれも料理とは言えない部分なんですけども、ホントにちよこつと手間をかけると、料理って化けるんですよ。だからそれと同じように、普段の生活もほんのちよこつとだけ見方変えたりすると、楽しくないことが楽しくなったりとかいうのもあると思うんですよ。

**門脇** 確かにその通りなんですけどね。私なんか「コンビニ弁当でいいよ」って言っちゃう方なんで、それが世の中を悪くしてるのかもしれないですね。

**鈴木** (軽蔑したように) やだ。

**門脇** もうコンビニ弁当で5分でOKみたいな。

**鈴木** はー、嫌だ。私、レトルトカレーでも、レトルトそのままじゃーってやんないですもん。必ず鍋に入れて、そこにターメリック入れたり、スパイスちよつと入れたり、刻んだ肉入れたりとか、ちよつと手を加えろとあの小麦粉のような味がなくなるんですよ。これはちよつと違うぞっていう。あとチョコなんか入れたりとか。

そういう工夫をいろいろやっていくと、それだけで生活って豊かになるんですよ。別に金なんてそんなにいりません。

門脇 そうですよねえ。なんでそれができないのか、ですよね。

鈴木 できなかったらできないでもいい。できる人を嫁や旦那にもらえばいいだけの話です。ただし、そこまでお互いにだましとおせるかという問題もありますけどね、できるふりをして。

門脇 ちなみにうちの妻は鈴木さんタイプで、必ずひと癖、じゃなくてひと手間かけます。

鈴木 私、それで一回家族パーになりました。ちやぶ台ひっくり返してパーになったわけじゃないですけど。

門脇 それはあまりに似ているおふたりだったのかもしれないね。

鈴木 わかんないです。

門脇 うちの妻はきちんとつくったのじゃなきゃ嫌だ、僕の場合はコンビニ弁当でいい、と正反対です。

鈴木 いいですね。

門脇 いいのか悪いのかわかりませんが。その雑草を食べる、というの面白そうですね。今度やりませんか。

鈴木 まあ、やってもいいです。山形で言う「ひょう」と言われているものが、こちらでは猫も

またいでいくぐらいのもので、これをむしろに敷いて乾かして、湯でもどして煮物にしたりするとすごく美味しいし。

門脇 この辺にも生えてるんですか。

鈴木 生えてます。

門脇 ええーっ！

鈴木 便所のかげとかにも生えてますし、「うこぎ」っていう、家の垣根とかに生えてるものは、乾かして煎じてお茶にしてもいいし、今はたま

ねぎが美味しいからたまねぎとかごぼうとかといっしょにかきあげにしても美味しいし。ほんのちよつとの工夫なんです。

門脇 その「ほんのちよつとの工夫」がなんなく出来てしまう鈴木さんですね…。

鈴木 だから結婚とかできないですよ。

門脇 そういふことか。

鈴木 それもあると思います。

門脇 例えば、自堕落な人間を代表して言う、「やつぱりそういう才能があるんじゃないか」と言いたくなるわけです。

鈴木 才能じゃなくて、たぶん困ってるからなんです。私、困ったという状況って、人生のいろんな中ですごくいっぱいあるんですよ。困った困ったって、じゃあこれをどういう風にひっくり返して行くかと考えていくと、なんでもやんなきゃならなくなっちゃうんですよ。

門脇 コンビニで弁当が食べられるのは、贅沢なわけですね。

鈴木 だって俺、怖くて買えませんもん。1食に500円なんてかけたことないし。「ホルン」

(※さんだいいメディアアーク向かいにある鈴木さんの行きつけの店「喫茶ホルン」のこと)で飲んだり食ったりするのは別にいいんですけど、それ以外に関してはあまり金かけたくないです。

門脇 月2000円？

鈴木 うちで食べる分は2000円くらいで済んでます。

門脇 今度やってみないといけませんね。

鈴木 米が1500円。あとは調味料材料で500円くらいで済んじゃうんです。いらなくなつたのをもらってきたりもするんですよ。

門脇 これは「デイベート編」ですからトーク、討論を中心にやってみますが、これと別に「体験編」なんかやったら面白そうな気がします。

鈴木 「鈴木さんと一週間過ごそう」みたいな。「サバイバル生活」とか。

鈴木 勘弁してくださいよ。私そういう人間じゃないんで。

門脇 逃げ出すか、カリスマとして崇めるようになるかみたいになりそう。

鈴木 1ヶ月1万円で生活するとかテレビでありますよ。あんなのはつきり言って楽勝で

すよ。私、1ヶ月2000円で生活できますもん。電気使うからだめなんですよ。電気全部消費しちゃって、ないならないなりで、っていう料理があります。

**門脇**

今後の討論テーマがまたひとつ見えてきたようです。原子力や節電問題。鈴木さんとサバイバルすれば、原子力はいらぬ、みたいな。

**鈴木**

3月11日からみなさん困ったって言うてましたよね。私、全然困りませんでした。快適に飯も食ってました。なんでみんなそんなにたいへんだ、たいへんだと言ってるのかなあと。それはホームレス経験者っていうこともあるし。みんなこんなに並びやがって、社会主義の国じやねえぞってひそかに考えたりしてたんですけど。たぶん、簡単な論理がわからなかったんです。今回って、引き算と割り算さえわかっていれば、そんなにたいへんなことにならなかつたんですよ。ものがなくなつたら、ないところを相手にしなきゃいいだけの話なんです。市でもいっぱいあまつてる市バスをうまく使つて買出し用に1家族ひとりとか限定して乗つけてくとか。実際、私、自分のアパートの住民とそういうことをやってたんですよ。そうやっていくとどういうメリットがあるかという、仙台から一時的に出ることができずから、ほつとす

るんですよ。そして山形なりに行つて美味しいもの食べると…人間て美味しいもの食べると絶対強いんです。先のことかどんどん考えられるんです。ところがろくに糞も出ないようなもの食つたつてろくな考えなんて出ませんよ。

**門脇**

バスを編成してというところがすごいです。

**鈴木**

普通、考えませんか？ だって路線バスが使えないっていうんだつたら、それを違う方向にと考えるだけでいいんですよ。地下鉄なんかはダメだけど、トローリーバスでもなんでもないんだから。特殊車両どうのこうのと言うんなら国や県あたりとけんかしてもいいし、ぶつぶつ言うんなら暴ればいいんですよ。「なに、並ばせようっていうのか」とか。

だからダイエーどうのこうのというのはきちんとかやれるように準備しておいて、それまでは買出しを中心に考えればいいわけだし、ガソリンがないというなら、メキシコやアメリカのある州でやっているように、今日は奇数のナンバーに給油するとか。

**門脇**

それはツイッター上でもよく見かけました。全然誰もやってなかったと思います。

**鈴木**

みんなで一台を共有するとかいう発想も出て来るんですよ。

**門脇**

コンビニ弁当で満足してしまう私のよう

な者の発想からすると、鈴木さんは強制的に生活をリセットされた経験を持っていて、その稀有な経験をしたからこそ、今の述べていただいたようなことを考えられると思うんですね。

**鈴木**

みなさん絶対大丈夫とかいうのにもあまりにもはまり過ぎてるんですよ。はつきり言うて絶対大丈夫なんてありません。ロシアアンクルで運が悪けりやドカーンなんて、今回の地震の方がずっと確率低いですよ。何千万回に一回というのも実際今回みたいに来るわけじゃないですか。だとしたら心のどこかに、何かあった時というのをちよつとだけでも考えておけばこんな風にはならなかつたと思うんです。

**門脇**

ということ、いかに我々、コンビニ弁当ボケしているといいますか、緊張感のない中で生きて来ているわけですが、逆に言うと、がんばらず、能力もなく、お金もなく生きていくてはだめなのか、生きていくことはできないのか、というのが実は私のテーマで、そういう私にとつても鈴木さんの体験、姿勢は大きなヒントになつているように思います。…私も雑草食べてみようと思います。

**鈴木**

美味しいんですよ。はつきり言つて三越の煮物なんてぶん投げなくなるくらい…あんまり言う（ビッグイシューが）売れなくなるんであれなんですけど、自分で採つて来て自分で

工夫して、あるいは子どもたちといっしょに採  
って来て子どもたちといっしょに調理したなん  
ていうのが加わると、面白さ楽しさは倍増して  
くるんじゃないかなと。

### 門脇

今度ぜひ作ってみましょう！ というこ  
とで、今日も「定禅寺ジャーナル ウェブ版 デ  
イベート編」、鈴木太さんとお送りしてきました  
が、そろそろお時間になってきました。今日は  
このへんでお開きにしましょうか。会場のみな  
さんも滋賀の西川さんも今日はどうもありがと  
うございました。